

古い写真 手掛かり求む

【シドニー共同】写っているのは誰？

撮影地はどこ？ 古い写真の手掛かり求む。オーストラリアに住む日本人が、1930～60年代ごろに日本で撮影されたモノクロ写真約300枚を見つけ、情報を募って被写体となっている人やその家族らに写真を返す取り組みを始めた。

オーストラリア在住の写真家、金森マユさん(58)は2015年、旅行先の南東部ビクトリア州デールズフォードのフリーマーケットで袋詰めされた写真の束を見つけ購入した。「日本人が写った写真がなぜここに」。不思議に思い店主に尋ねたが、分かったのは「市内のジーロングに住んでいた故人宅から出てきた」ということだけだった。子どもが写った家族の記念写真や、学校や職場の行事で撮影されたとみられるものなど多岐にわたる。背景などから一部の撮影地が判明。京都や奈良など関西が多かった。

「どれも誰かの大切な写真に違いない」と思い続けていた金森さんは、新型コロナウイルス禍で外出が制限された昨年、自宅にこもって写真をデジタル化。オーストラリア在住のウェブデザイナーで知人の村岡

豪在住の日本人 見つけた300枚の情報募る



日本で撮影され、オーストラリアで見つかった写真の数々(「Untitled: Showa」提供、共同)

稚憲さん(56)が、情報提供を呼び掛けるポータルサイトを昨年8月に開設した。

「無題の昭和」を意味する「Untitled: Showa」と名付けられたサイトには金森さんが購入した全写真が掲載され、閲覧者が写真についての情報をコメントとして残せるようになっている。

4～7月はオーストラリア、9月には京

都で写真展を開催する予定で、関西学院大(兵庫)の学生と手掛かりを調査する計画もある。

金森さんは「古い写真からさまざまな背景を探ることができる。一人よりも大勢で探せばそこから新しい何かが生まれる可能性もあるし、日豪交流のきっかけにもなれば」と話している。